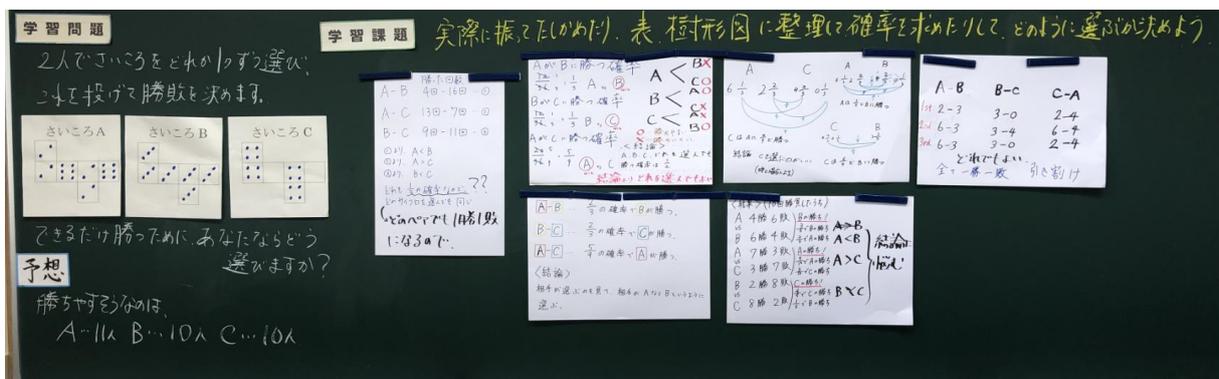
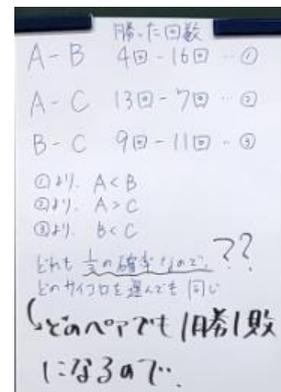
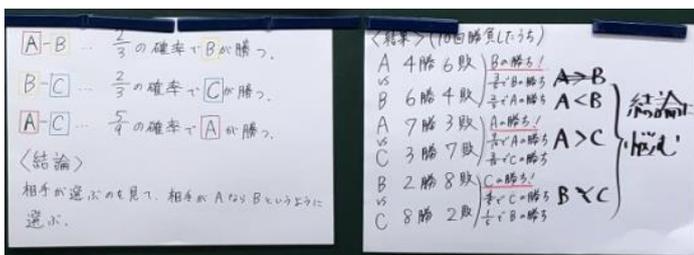


お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：信州大学教育学部附属長野中学校・中村俊介
2. 学年・教科等・単元等：中学校第2学年・数学科・「確率」
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校
4. 基にした実践：「数学的確率」
 (お茶の水女子大学附属中学校の藤原大樹教諭作成の学習指導略案
 「エフロンのさいころ」)

5. 実践の概要

平成31年3月5日(火)に実施しました。求めた確率を用いて、不確実な事象を捉え考察し、意志決定することができることをねらいとして行いました。藤原教諭作成の指導略案では、時間が足りないと考え、エフロンのさいころA、B、Dを問題として提示しました。意志決定した後、さいころCを加えるとどうなるのかと発展させていこうと考えました。さらに、統計的確率から考えたいという生徒がいたので、統計確率から意志決定することも展開に加えました。



6. 実践してみた感想など

統計的確率と関連付けながら思考できたことはよかったと思います。しかし、統計的確率から考えていた生徒は、数学的確率を求める時間が無く、友だちの求めた結果を聞くのみになってしまいました。確率の単元の出口としては、数学的確率だけで求めて意志決定していく方がよかったかと思います。統計的・数学的確率両方考えていたため、時間に余裕がなく終わってしまったのも反省点です。多様な意志決定はできてきましたが、結論に悩むという生徒が多くいた様子でした。不確定な結果から何かを決めるという経験に乏しいという印象も受けました。様々な授業で意志決定をしていくというのはキーワードになりそうです。